



SASEBO WEEKLY

佐世保ロータリークラブ 会長・橋高 克和 幹事・石井 正剛
 事務所・佐世保市島瀬町10-12 親和銀行本店内 TEL 0956-22-7720 FAX 0956-25-6323
 例会場・佐世保玉屋8階 (毎週水曜日) TEL 0956-23-8181
<http://www.sasebo-rc.jp/> E-mail:src@circus.ocn.ne.jp

平成 21 年 11 月 4 日

第 2,908 回例会

NO 17

《本日》会員数 78名 (出席免除会員 21名) ・出席 41名 ・免除者出席 9名 ・欠席 16名 ・ビジター 4名 ・出席率 64.10%

《前々回》会員数 78名 (出席免除会員 21名) ・出席 43名 ・メークアップ 14名 修正出席率 100.00%

会長挨拶

会長 橋高 克和 君

皆様こんにちは。ここ2、3日の寒さに驚きましたが、どうぞお体ご自愛いただきますようにお願いします。



さて、先週10月31日・11月1日と、島原で地区大会が開催されましたので、その報告をさせていただきます。

今年度のRIのテーマ「ロータリーの未来はあなたの手のの中に」をベースとして高城ガバナナーのもとで開催されました。

RI会長代理として、第2830地区パストガバナナー 関場慶博さんの講演と、記念講演としてキャスターの草野 仁さんが「いつもチャレンジ精神で」という演題で話され、番組の裏話なども含めて、大変力強いお話でした。

また、今回の講演では、関場パストガバナナーのお話はとても感動的で、出席者の皆さんの心を打つものとなりました。

ロータリーの原点として支える時空を超える原理として

- ①「Fellowship (仲間を大切に思う気持ち)」
 - ②「Service (お役に立てる事の喜び)」
- の二つを取り上げられました。

50歳で地区ガバナナーをされて、現在RIで実践をしておられる方ですから、とても説得力のあるお話でした。

このServiceということで、一度限りの自分の人生において、自分の為だけに生きたのでは何か死ぬときに後悔するのではと思うし、何か人のお役に立てる、あるいは社会の役に立てる事をサービスとして考えておられました。

また、人間には二つの手がある。一つは自分の事を職業奉仕などできちんと行う手。一つは他人の為に役に立てる手。

こうすることで、ロータリーをしっかりと楽しみましようとの事でした。

私も何度か地区大会に出席させていただきましたが、今回の講演を聞いて、ロータリアンとして活動する事の大切さを感じて帰ってまいりました。

例会記録

- 国歌「君が代」
- ロータリーソング「奉仕の理想」
- 卓話者
佐世保西RC 会長 田中 省二君
- ビジター
佐世保西RC 吉武 直亮君
望月 太一君
鴨川 潔君
中村陽一郎君

幹事報告

幹事 石井 正剛 君

1. 佐世保西ロータリークラブ

会長 田中 省二 君
行事委員長 福田 輝機 君
実行委員長 鴨川 潔 君

創立40周年記念式典お礼状

2. 佐世保実業高等学校

校長 横尾 和雄 様

姉妹校締結調印式及び「佐実祭」開催のご案内

日時／平成21年11月7日(土)

調印式 9:00～

国際交流会 9:40～

文化祭 11:15～

会場／本校舎・体育館及び校庭

地区大会報告

■米山記念奨学会・国際青少年交換委員会合同セミナー

石井 正剛 幹事

青少年活動委員会 委員長 幸良 秋夫 君

米山記念奨学会理事長 板橋敏雄さんの挨拶に始まり、国際青少年交換留学生3名、米山奨学生1名の意見発表がありました。



(板橋氏：足利RC、30歳入会、55歳ガバナー、RI会長代理数回、2007年より米山記念奨学会理事長)

冒頭の挨拶の中で、米山記念奨学会の現況説明として、現在、主にアジアからの留学生800名が対象になっており、基金総額50億円、予備費20億円、国債にて運用しているとのことでした。

米山は民間での奨学金制度としての寄付額1位であり、韓国大使も25年前に米山奨学生でした。

中国からの旧米山奨学生(東大・法学部卒)が米山功労者団体をつくり、毎年米山記念奨

(2)

学会に寄付している。また、中国において米山記念奨学会を設立する運びとなっている。

生徒達はまだ日本に来て3～4ヵ月と日が浅く、たどたどしい日本語ではありましたが、文化の違いや感謝の気持ちを表していました。

ロータリー3分間情報

雑誌委員会 東 陽三郎 君

今年の7月中旬頃、平戸で「鄭成功祭」が盛大に行われ、台南市からたくさん出席されたという記事が長崎新聞に出ていました。また、翌月の8月の「ロータリーの友」には日本と台湾の第2回の「ロータリー親善会議」が日月潭で行われ、姉妹地区・姉妹クラブそして共同プロジェクトなどを通じ、永年交流してきたロータリー活動の現状について情報を交換し、日台親善を図る催しを行う旨の記事がありました。



今月11月23日に台南において、「姉妹クラブ締結更新式典」で調印が行われ、また来年は佐世保クラブ60周年でもあり、佐世保への多数の出席をお願いしたいとの思いであります。この度、訪台される橋高会長、中川内委員長、松尾委員長には、心労多いことだと思います。

私の個人的な意見として、台湾各地を訪問して、不愉快な待遇を受けた記憶もなく、常に親日的な感じを受けておりました。この度少し日台関係を振り返って見た時に、あまり自慢になるような事はなかったと思います。

やはり、異民族による植民地統治は、支配される民族の伝統的な文化を破壊し、政治的な従属を強制し、経済的な圧迫も加えるため、必然的に支配される民族の抵抗運動を惹き起こすようです。

日本の台湾統治も正にそのとおりであり、抵抗運動には武力運動と政治運動であったと思います。歴史的に色々な事があったと思いますが、「行為と友情」がどのように深められたかという事になってくると思います。

ニコニコボックス

親睦活動委員会 納所 佳民 君

佐世保西RC会長 田中 省二 君

先日の佐世保西RC創立40周年記念式典及び祝賀会には橘高会長、石井幹事さんにご臨席いただいた上に、祝電までいただきましてありがとうございました。

また、今日は卓話にお声掛けいただきましてありがとうございます。これからもご指導ご鞭撻よろしく願いいたします。

橘高 克和 会長、石井 正剛 幹事

円田 浩司 副幹事

佐世保西RC 田中省二会長の卓話、楽しみに聴かせて頂きます。(一番近い席で)

森 信正 君、飯田 満治 君

鬼木 和夫 君、有蘭 良太 君

山縣 義道 君、金氏嘉一郎 君

佐世保西RC 田中会長の卓話に期待して。

幹事さんに会長幹事会でいつもいろいろとご指導いただいていることや、円田さんとも白南風町で隣保班だから、多少のことは大目に見てもらえるだろうと思って引き受けましたのでよろしく願いいたします。しかし、今は皆様を前にして非常に緊張いたしております。

今日の卓話のテーマを何にしようかと我がクラブの重鎮に相談しましたところ、「そりゃー田中君、佐世保クラブさんですのでであれば、スポンサークラブとしてこれまでご指導いただいたおかげで、我がクラブも今年創立40周年を迎えることができたのだから、『創立40周年記念式典と祝賀会』の状況をお兄さんクラブへ紹介して、佐世保西ロータリークラブの会員は少数だけでも頑張っていることをご披露すべきだよ」と助言をいただきました。20分ほどですが、今からその様子をスクリーンに映しますので、ご辛抱のほどよろしく願いいたします。

その前に少しだけ私の自己紹介をさせていただきます。

お手元に配布いたしておりますミニパンフレットを開いていただくと「緑とゆりのある環境づくり」と書いてありますが、私は環境共生型のまちづくりに寄与したいとの思いで環境設計業務に32年間携わってきました。

皆さん技術士という資格をご存じでしょうか？ 医者、弁護士、公認会計士になるのと同じように、技術者としては技術士試験という国家試験があります。その国家試験に合格したものは「技術士」として科学技術庁に登録し、それぞれの専門分野で国土交通省にコンサルタント登録をして仕事をしています。

私は環境設計コンサルタントとして、環境に関する分野で「建設部門 都市及び地方計画」の技術士の資格を持って設計コンサルタントを行っています。

ところで、21世紀は環境の時代と言われ、既に10年が経とうとしていますが、今年にはオバマ大統領によるグリーン・ニューディ



ニコニコボックス	本日合計	19,000円
	累計	363,000円

卓 話

『創立40周年を迎えて』

佐世保西RC会長
田中 省二 君



皆様こんにちは。私は佐世保西RC会長の田中省二です。今日卓話の機会をいただきましたことに心より厚くお礼申し上げます。

実は円田さんから卓話を頼まれました時は少々尻込みしていましたが、橘高会長や石井

ールやCO₂排出量取引の促進や鳩山首相の温室効果ガス25%削減という国際会議での表明など、地球温暖化対策と低炭素型都市の実現への機運が高まってきています。

このことは、二酸化炭素という温室効果ガスの吸収効果がある「緑の重要性」や、特に都市における「緑の環境づくり」の重要性が本格的に認識される時代が来たということと、これから更に、私の専門分野の仕事が重要視される時代になるであろうと期待しています。

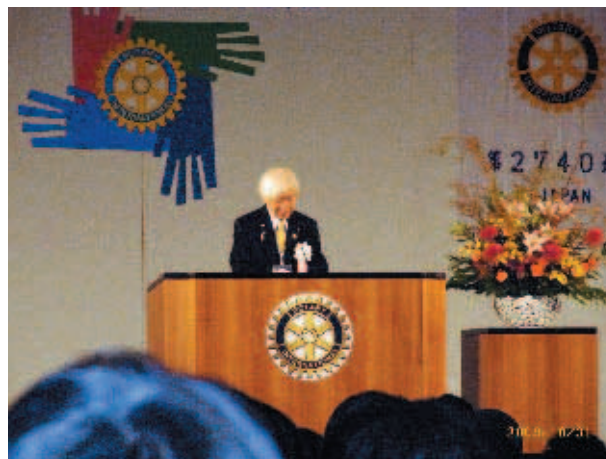
全国の多くの自治体では既に「環境共生型のまちづくり」を目指して地域の自然環境を

守りつつ、緑のネットワークづくりなどに取り組むとともに、市民が環境の大切さを理解し、環境保全行動を積極的に進めています。

環境共生のまちづくりとは、低炭素社会のみならず自然共生、地域共生、資源循環共生都市づくりを目指すことですが、今後、このような観点からまちづくりをテーマとした卓話のご依頼があればお受けしたいと思いますのでよろしく願いいたします。

それでは、本日の卓話をスタートいたします。

地区大会風景



* 次回例会予告 *

卓話予定 会員 高橋 理一 君
「佐世保日本無線(株)」

(今週の担当 小川 芳寛)

クラブ会報委員会

委員 長	芹野 隆英	委員	池田 誠・小川 芳寛
副委員 長	平尾 幸一	納所	佳民